

# NEWS TOPICS

今回ご紹介するのは、令和3(2021)年度修景事例3例のうちの最後の1例です。

## <佐野家住宅>

大正初期に建てられた総2階の町家です。外壁は漆喰塗と、腰板塗装で仕上げ、既存銅製樋を残し、大屋根を葺き替えました。2階部の鋼製格子は、木製格子に取り替え、電気・ガスのメーター類も木製のカバーで覆われ、玄関建具も一新し、駒寄(こまよせ)も再塗装し修景しています。



# 堺

## 環濠都市

# NEWS

[ニュース]

北部

歴史的まちなみを  
未来に活かすため

元禄堺大絵図の町へようこそ!  
イベント週間&報告会開催!

vol.36

## INFORMATION

### ▶元禄堺大絵図の町を歩く会 第1回開催

堺環濠都市北部地区は、その大部分が、江戸時代の元禄2年(1689年)の堺大絵図に描かれた町割りがあり、そのまま現代に残る町です。令和5(2023)年度は、町なみ再生協議会の最終年度でもあり、改めて、原点に立ち返り、大絵図片手に、元禄の町を想定しながら現代の町を歩きます。ぜひ、ご参加下さい。

4月23日(日) | 場所: 堺町家案内所(北旅籠町大道西・内田家住宅1F)  
時間: 13:00 集合 \*事前申し込み不要。直接、集合場所まで。

### ▶あなたなら、どうする?<町家保存活用試案>展示

3月に、堺町家案内所の公開時間に合わせて、とりあえず4日間公開しましたが、令和5(2023)年度も、6月まで、適時、公開する予定です。詳しくは、堺町家案内所の掲示や協議会のHPをご覧ください。

### ▶第12回定期総会(令和5年度)開催について

5月14日(日) | 時間: 13:30~ 場所: 国の登録有形文化財「櫻館」(桜之町西3丁1-7)  
内容: 令和5年度事業計画(案)等について  
講演「慧海のふるさと〜町と人と〜」奥山直司氏 [高野山大学名誉教授]

▶協議会へのお問い合わせはこちら  
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会  
TEL 072-228-0953 [志賀]  
MAIL info@sakaimachinami.jp

▶「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら  
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室(景観グループ)  
TEL 072-228-7432  
FAX 072-228-8468

## 今号の表紙

今号の表紙も元禄堺大絵図の模写本の一部です。ニュース26号から34号まで、堺環濠都市北部地区の大部分を網羅し、前号の35号の絵図は、地区の東側のすぐ南に接する地域の絵図でした。今号の絵図は、その35号の絵図のすぐ西側に接する地域です。今号で、26号から続けた、元禄堺大絵図の表紙シリーズは終了します。前号(35号)と今号の地域は、戦災や戦後の区画整理により、町の姿が大きく変わりました。この地域では、妙国寺等一部の大寺院は残りましたが、幕府直轄地(天領)の政治の中心であった奉行屋敷やその傍らにあった与力同心屋敷跡地は、明治時代に市役所や裁判所が建てられ官庁街となった後、今や跡地の痕跡もなく消え去りました。また、前号、今号の絵図からは、奉行屋敷等は、その東側の与力同心屋敷と向かい合っており、東側には入り口があったことがわかります。元禄の堺大絵図と現代の町の様子を見比べると、堺環濠都市北部地区が、現代に今なお存在することの貴重性・価値が、より際立ちます。



「元禄堺大絵図模写本」【部分】(堺市博物館蔵)



前号NEWS発行から  
現在までの進捗情報

## 今年度も、町なみ再生イベント週間(10/28~11/3)を開催しました!

町なみ再生イベント週間は、例年通り、堺町家案内所における展示と、「昔・町なみ歩こうイベント」を、七まち町家会の町家公開とタイアップして行いました。

### ▶展示「町家と環濠～よみがえる環濠都市の景観～」

今回も、上記展示テーマのシリーズ(Ⅱ)「環濠都市の痕跡をたどる」と題して昨年に引き続き、昨年展示できなかった写真などを展示しました。

中世の環濠都市が大坂夏の陣の際に灰燼に帰した後、新たな町割りで建設された江戸時代の環濠都市は、近年の第2次世界大戦による戦火で多大な被害を被りました。戦後も区画整理や開発等により、その面影は年々なくなり、現在では北部地区を中心にかなり残されているだけです。今回も、写真や地図などで、北部地区における、江戸時代から戦前までの環濠都市の在りし日の姿を偲びました。



今年度は、地藏盆の行灯展示を行いましたので、2年ぶりで大行灯の展示も復活しました。

内部の写真展示の様子(部分)です。

### ▶昔・町なみ歩こうイベント

今回は期間中の1日(10月30日)だけでしたが、改めて、協議会のキャッチフレーズ「江戸時代の町割を活かした 環をはぐくむまちなみ」に立ち返り、元禄の堺大絵図そのままの江戸時代の「町割」を確かめながら歩きました。特に、本来の道幅が2間という細い「六間筋(ろっけんすじ)」に注目して歩きました。ニュース 25号掲載の京都工芸繊維大学の清水先生のご講演で注目された「六間筋」ですが、平成26年2月に山口家住宅で開催された「第4回歴史的なまちなみ勉強会」における京都府立大学(当時)の大場先生のご講演でも「堺には、細い道路の両側に、格子や犬矢来(駒寄せ)を設けた町家が並ぶ景色が残されている。京都では公道でこれほど細い道はあまりなく、大事にしたい街路景観だと思う」と指摘されています。「六間筋」は、いわば、歴史都市である環濠都市の個性であり、未来に引き継ぐ歴史的景観と言えます。



1. 国の登録有形文化財「櫻館」のある六間筋(桜之町西3丁)

2. 国の登録有形文化財・堺市立町家歴史館「清学院」のある六間筋(北旅籠町西1丁の南部分)

3. 2と同じ部分の六間筋<1976年・昭和51年撮影>

## 堺環濠都市北部地区 伝統的家屋調査 報告会を開催しました!

| 2023.3.19(日) 午後1時30分～ 錦西公民館集会室(堺市立青少年センター2F) |

「堺環濠都市北部地区伝統的家屋調査報告 歴史・生業・生活の関係性からみた堺の景観」

川口 華氏(京都工芸繊維大学大学院博士前期課程)

「堺環濠都市北部地区伝統的家屋調査を踏まえた文化的景観としてのまちづくりの可能性」

清水 重敦 氏(京都工芸繊維大学教授)

コロナ禍のために延期されていた京都工芸繊維大学による北部地区における調査が、昨年11月・12月に、地区の皆様のご協力で、集中的に実施されました。この度、この調査で中心的な役割を果たされた、京都工芸繊維大学大学院の川口華さんが、清水教授の指導のもと修士論文をまとめられました。今回の報告会では、その川口さんのご報告と、その報告に基づいた清水先生のまちづくりへのご提言がありました。

川口さんのご報告では、今まで清水先生から指摘されていた事実が、実際の外観調査や実測調査によって確認され、また、歴史的な考察とその後の聞き取り調査等で生業や生活に関わる事実が明らかにされたことにより、現時点での堺環濠都市北部地区の性格が明らかにされた、興味深く刺激的な、すばらしいご報告だったと思います。今後、中間報告書の作製が計画されていますので、北部地区の特質がより明確になることが期待されます。

清水先生は、川口さんの報告に基づき、堺環濠都市北部地区は「希有な個性を持つ歴史都市として、その価値を生かしたまちづくりが行われるべき」であるとし、ハード面とソフト面から、より具体的に踏み込んだご提案をされました。そして、北部地区のまちづくりに必要なものは、「堺環濠都市北部地区の『価値』を軸に置かまちづくり」、ハードとソフトが連動するまちづくり、伝統的なものと新しいものが連動するまちづくりなどで、やはり、「『重要文化的景観』としての価値付け・保存が一つの解決となりうる」と結論づけられました。私たちが、やはり、この方向性で進むことが「希有な個性を持つ歴史都市」の個性を最も生かせる方法であると再認識した次第です。今後、地域の皆さんとも、様々な話し合いを重ねて行きたいと思っております。ぜひ、皆さんのご意見をお聞かせ下さい。



## あなたなら、どうする? <町家保存活用試案>展示

| 2023.3.9(木)・16(木)・23(木)・30(木) 午後2時～午後4時 会場: 内田家住宅1F(「堺町家案内所」の隣) |

今回の展示は、創造社デザイン専門学校(大阪市西区江戸堀)を2021年度(2022年3月)に卒業された八田優希さんが、内田家住宅をモデルに町家の保存活用案を考え、模型とパネルの形で発表された作品をお借りして展示しました。作品は卒業制作として作製されたもので、学校の選抜作品に選ばれました。(なお、パネルは本展示のために、新たに、再制作していただきました。)皆さんも、この作品をヒントに、堺らしい町家の活用方法を考えてみませんか? 新たな発見があるかもしれません。また、今回は、希望者には、内田家の一部見学もしていただきました。今後も、6月位まで適時公開する予定です。

